

長崎の海洋ごみ調査レポート

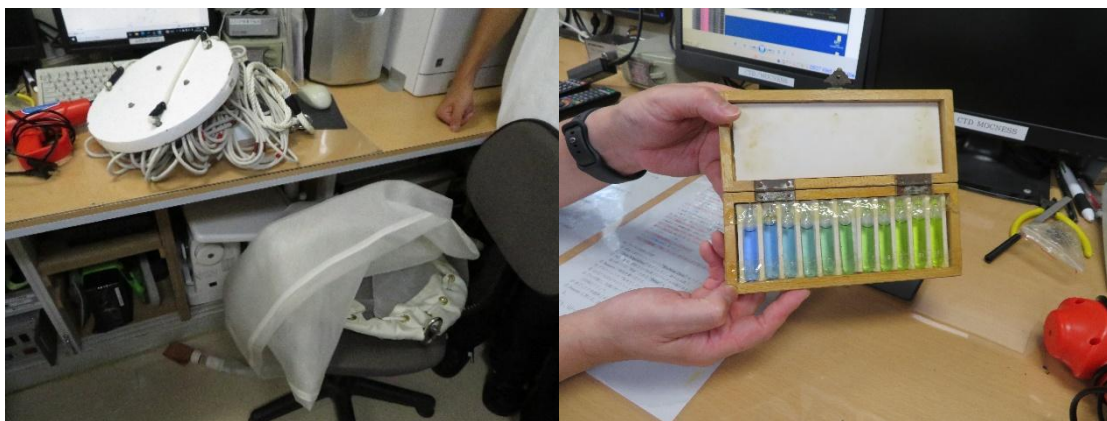
長崎県立長崎北陽台高等学校・3年・三浦泉吹

一日目 漂流ごみの調査

船の中は結構部屋っぽい作りで、階段がとても急だった。最初の説明を聞いている間は揺れを感じたが、酔うこともなく慣れることができた。特に大きく揺れている間は、ずっと立っているのが大変だった。

昼食が思っていた以上に豪華で、私は麺類が普段あまり多く食べられないので食べ切れるか不安だった。しかし、とても美味しかったので意外と完食できた。

モニターや調査に使う道具の説明を聞いた。初めて見る道具や機械がとても多く、説明を聞くのがとても楽しかった。



漂流ごみを見つける作業。ごみを見つける係、船との距離を測る係、記録係などを分担して行った。最初は見つけることに苦労したが、コツをつかむと段々と多くのごみを見つけることができた。特に潮目のところはごみが多かった。双眼鏡で見ると、結構遠くまではっきりと見えて驚いた。



発泡スチロール	33					
ペットボトル	28					
そのほかプラスチック	17					
浮子	8					
そのほか漁具	1	漁具	9			
そのほか人工物	4					
金属製品	3					
食品包装材	2					
ガラス製品	2					
レジ袋	2					
流木	1					

後日、清水先生からいただいた調査結果。金属、ガラス製品に比べてプラスチック製品の数が多いことが分かる。漂流ごみは比較的海水に浮きやすいものが多く見つかるのかもしれないと考えた。

晩御飯もお昼以上に豪華で美味しかった。皿洗いを手伝った。たくさんあって大変だったが、洗い終わった後はとても達成感があった。ベッドで横になると、船の揺れが意外と心地よかったのですぐに眠ることができた。

二日目 対馬で漂着ごみの回収作業

対馬に上陸し、海岸で漂着ごみの調査をした。



ごみは結構大きかった。遠くからでも視認できるほど漂着しており、マレーシアから来たごみもあって驚いた。バーコードを読み込んでどこから来たかなどを調べることができるらしい。日本語のごみもあったが、ハングルが書かれたものも多かった。

全体の感想

初めて経験することばかりで、とても充実した3日間を過ごすことができた。乗船直後は船酔いが心配で緊張したが、酔わずに活動できたのでよかった。対馬へ行くのも初めてだったので、改めてこのプログラムに申し込んでよかったと思えた。

今回の体験を通して、調査船の内部や対馬の海洋ごみについて多くのことを学んだ。実際に漂流・漂着する海洋ごみを見て、これは世界全体で解決していかなければならない問題であると実感した。

マイクロプラスチックやゴーストギア、海洋生物への悪影響など、海洋ごみにまつわる海洋汚染問題は近年よく話題に上がっている。企業や団体による海洋ごみへの対策が増える一方、私たち個人ができることは何だろうか。私一人が大きなことはできないかもしれないが、まずは周囲の友達や家族に、思い出話と共にこの調査で見た海洋ごみの現状を伝え、この問題に対する意識を高めていければ良いなと思った。